

令和 8 年度第 1 回^もり森林の未来を考える懇談会資料

現地調査資料

令和 8 年 7 月 2 7 日

福島県農林水産部森林計画課

第1回森林の未来を考える懇談会行程表

実施日	行 程			
令和8年7月27日	集合	(1) 会議	(2) 現地調査	
	林業研究センター (研修本館) (郡山市安積町) 13:00	→ 林業研究センター (研修本館) 13:00～13:45 (45分)	ア 花粉の少ない苗木づくり対策事業 林業研究センター (苗畑) 13:50～14:15 (25分)	→ (30分)
	(2) 現地調査 イ 森林環境交付金事業 (地域提案重点枠)		解散	
	認定こども園こどもの杜岡ノ内幼稚園 (岩瀬郡鏡石町岡ノ内) 14:45～15:15 (30分)	→ (30分)	林業研究センター 15:45着	

※移動手段：民間貸切バス

※昼食は各自お済ませのうえ集合ください。

花粉の少ない苗木づくり対策事業

1 事業内容

(1) 生産基盤整備事業

- ア 採種園の造成
- イ 採種園・配布用の苗木育成
- ウ 展示林の管理

(2) 種子確保対策事業

- ア 人工交配及びカメムシ防除対策
- イ 採種園の管理

2 事業目的

- (1) 花粉症対策に資する品種の採種園を造成し、種子生産を安定化させるための管理・改良を行う。
- (2) 特定母樹の実証展示林を管理し、従来のスギと比べて花粉量が少なく成長に優れる特性を視覚的に示すことで、森林所有者らの造林意欲の向上を図る。
- (3) 花粉症対策品種等の採種園において、少花粉スギ及び特定母樹の人工交配の実施や球果のカメムシ防除対策を実施し、種子の品質向上を図る。
- (4) 県民参画の森林づくり活動に少花粉スギや特定母樹等の花粉症対策に資する苗木を提供してその特性をPRし、普及促進を図る。

3 事業主体

県（林業研究センター）

4 R8 事業費

12,313,000 円（内森林環境基金 12,288,000 円）

【参考】全体計画

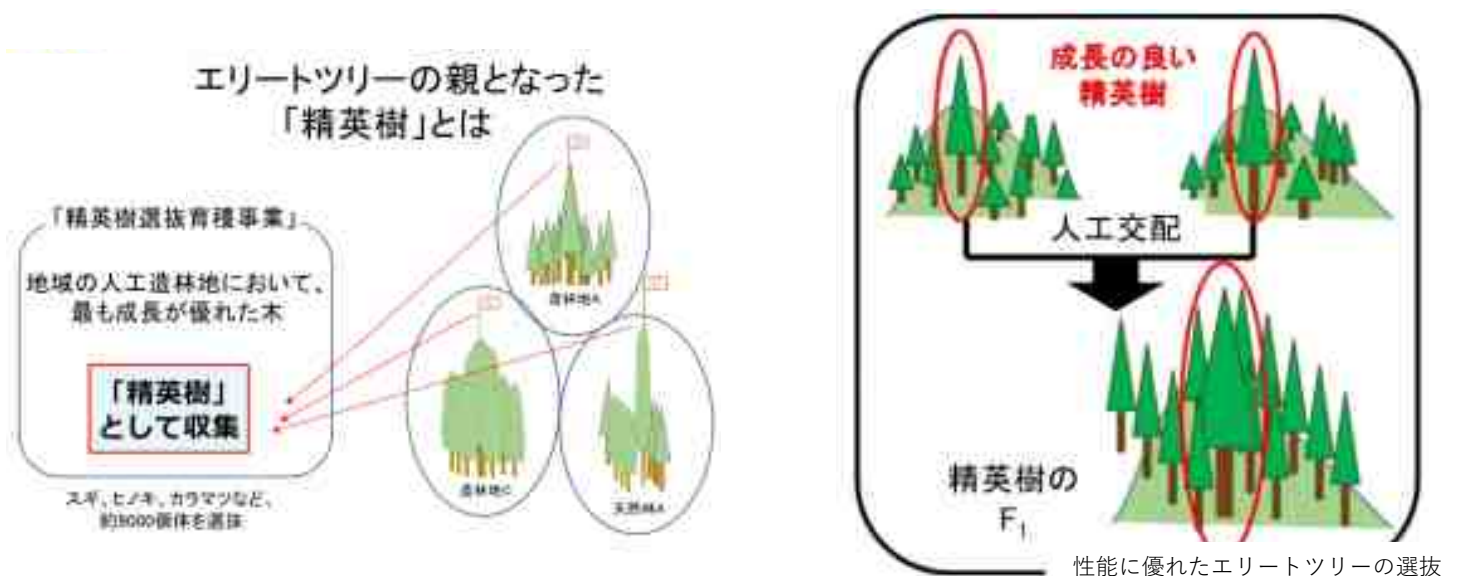
事業内容		R8	R9	R10	R11	R12	備考
1 生産基盤整備事業	採種園の造成・改良	○	○				
	苗木育成（造成用、補植用）	○	○	○	○	○	
	実証展示林の管理	○	○	○	○	○	
2 種子確保対策事業	人工交配	○	○	○	○	○	
	カメムシ防除対策	○	○	○	○	○	
	採種園の管理	○	○	○	○	○	

林木の育種

福島県林業研究センター 森林環境部

【エリートツリーとは】

地域の人工造林地において、最も成長が優れた木として選抜された「精英樹」のうち、優良なものの同士を人工交配によりかけ合わせ、その中からさらに優れた個体を選んだもの



「エリートツリーの開発・普及」（森林総合研究所林木育種センター）より引用

間伐等特措法の改正（平成25年5月に交付・施行）

- ・森林の二酸化炭素吸収固定能力の向上のため、成長等に優れた地域の人工造林地において、最も成長が優れた樹木を農林水産大臣が「**特定母樹**」として指定。
- ・「**特定母樹**」による再造林に向けた民間活力導入のため、民間事業者による「**特定増殖事業**」（都道府県が認定）が新設。
- ・今後の造林においては、花粉症対策品種、マツノザイセンチュウ抵抗性品種等地域特有のニーズを除き、特定母樹由来の育苗で造林を推進

3

特定母樹の基準

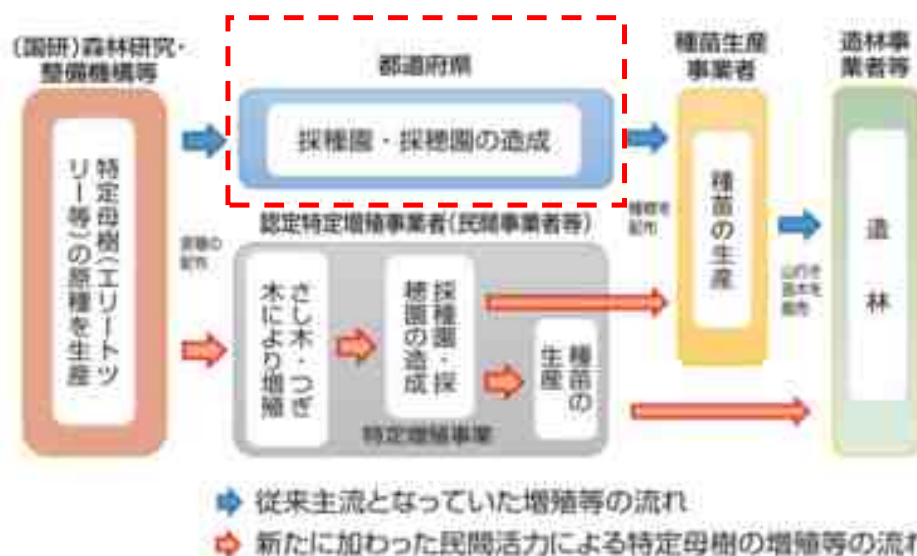
- ・成長が良い：在来の系統の概ね1.5倍の材積
- ・材の剛性が同様林分の平均以上
- ・採材に支障がない幹の通直性
- ・**雄花着花量が少ない**
⇒ 一般的なスギ・ヒノキの花粉量の概ね半分以下

※ エリートツリーより雄花着花量の基準が厳しい。

「エリートツリーの開発・普及」（森林総合研究所林木育種センター）より引用

4

スギエリートツリーの普及



特定母樹の普及体制(間伐等特措法)

「エリートツリーの開発・普及」(森林総合研究所林木育種センター)より引用

1

○参考

【林業研究センターが所管する圃場】

- ・ 林業研究センター(郡山市) → スギ(一般)採穂園
スギ(少花粉スギ、特定母樹)採種園・採穂園
マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ採種園
- ・ 会津圃場(喜多方市) → スギ(一般)採種園・採穂園
スギ(少花粉スギ、特定母樹)採種園・採穂園
- ・ 大信圃場(白河市) → ヒノキ(一般、特定母樹)、スギ(一般)採種園
- ・ 新地圃場(新地町) → スギ(エリートツリー)展示林

5



花粉症対策品種の開発

ー林木育種からのアプローチー

花粉症問題に対する林木育種面からの対策として、
森林総合研究所林木育種センター及び育種場と都県が連携して、
スギ及びヒノキの花粉症対策品種を開発しました。

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター

Forest Research and Management Organization

概 要

社会的な問題となっている花粉症に対する林木育種面からの対策として、森林総合研究所林木育種センターと都府県が連携し、成長や幹の通直性等に優れた精英樹を対象に、北海道を除く全国において、**花粉がきわめて少ない品種**等を、令和3年度末時点で、**少花粉スギ147品種、低花粉スギ16品種、少花粉ヒノキ55品種**を開発しています。

このうち、**少花粉スギ8品種、低花粉スギ2品種**は農林水産大臣から成長に係る特性の特に優れた**特定母樹**に指定されています。

また、**無花粉(雄性不稔)スギ18品種**も開発しています。気象害抵抗性候補木の中から開発した品種で平成20年3月に品種登録された「**爽春(そうしゅん)**」、優良形質候補木の中から開発した品種で「**スギ三重不稔(関西)1号**」、「爽春」と精英樹の人工交配を行い開発した、成長に優れている「**林育不稔1号**」「**林育不稔2号**」、関係都県と連携して開発した無花粉(雄性不稔)スギ18品種です。

さらに、関係機関と連携し、今後の品種開発や採種園における種子生産のため花粉木としての利用が期待される**無花粉遺伝子を有するスギ2品種**を開発しています。

花粉の少ないスギ



花粉の少ないスギ品種



普通のスギ

花粉の少ないヒノキ

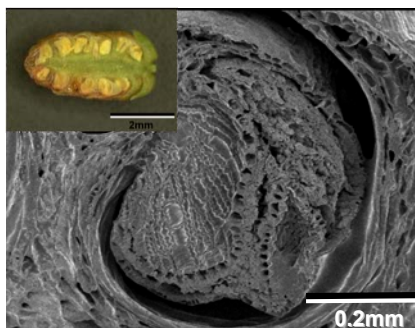


花粉の少ないヒノキ品種(西川4号)



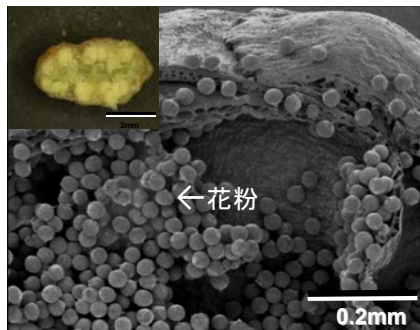
普通のヒノキ

無花粉スギ



無花粉スギ品種(爽春)

無花粉スギ品種の雄花の中には、花粉(丸い粒)が全く見られません



普通のスギ

花粉症対策品種の普及の仕組み

開発された
花粉症対策品種



都府県等
へ供給



採種園
採穂園



林業用樹木
として活用

県産材の利活用促進（森林環境交付金事業（地域提案重点枠））

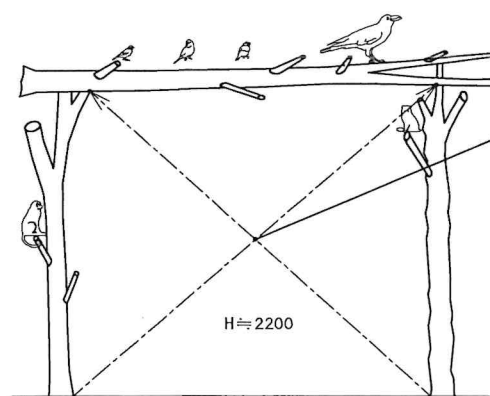
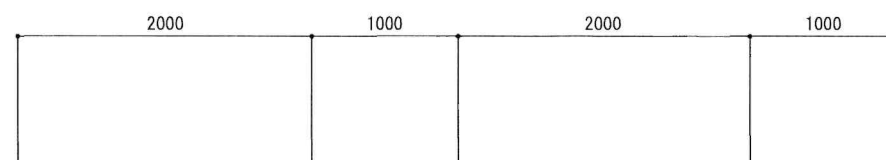
1 森林環境交付金事業（地域提案重点枠）

地域住民の意向や地域の実情に精通している市町村が、独自性を発揮して創意工夫を凝らしたきめ細やかな森林づくり事業を展開するための交付金のうち、県産材又は木質バイオマスの利活用等による森林環境の保全に資するものを対象とし、県産材による公共施設の木質化や県産材を使用した物品の導入等を支援する。

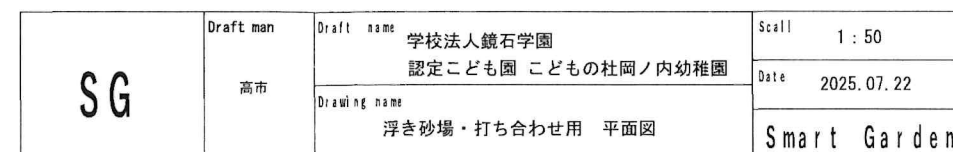
2 事業概要

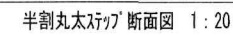
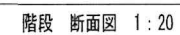
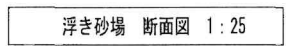
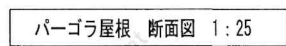
- (1) 実施主体 鏡石町
- (2) 間接補助先 認定こども園こどもの杜岡ノ内幼稚園
(岩瀬郡鏡石町岡ノ内 14-8)
- (3) 事業内容 県産木材を活用した浮き砂場設置工事
- (4) 導入目的 園児が直接、目で見えて触れて木の暖かさを感じ取り、森林環境及び森林資源の重要性に対する意識を高めることを目的とする。
- (5) 事業期間 令和 7 年 9 月 17 日～令和 7 年 12 月 10 日
- (6) 事業費 20,010,000 円
 - 〔 森林環境交付金 9,325,000 円
福島県地域で育む保育環境創造事業補助金 3,333,000 円
こども園負担 7,352,000 円 〕
- (7) 木材使用量 14.8m³（土台：クリ、その他：ヒノキ）
- (8) 完成写真





丸太ステップ® 取付断面図 1 : 25





- 11 -